

《専門科目》

科目名	保育の造形				
担当者氏名	大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

演習を通して保育者が幼児の造形活動を活発にするために必要な知識と技能を学ぶ授業である。

においては、特に立体造形(紙工作、粘土や身近な材料を使いながら「つくる」「造形遊び」)の指導を行うための、基礎技能を身につける。

《授業の到達目標》

幼児の造形表現活動を活発にするため、造形表現の意義、目的や幼児の造形的発達段階の知識を習得するとともに、基礎的な造形技法や造形表現に関する指導法を身につける。

《成績評価の方法》

製作の取り組み30%、製作した作品30%、課題レポート40%を資料とし、学期末に総合的に評価する。合計60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児の造形活動と造形的発達	造形表現内容の構成・幼児の立体造形の発達段階の特徴を学ぶ。 〔準備学習〕教科書 P75～P82 第4章を読んでおくこと。
2	新聞紙を使った造形遊び	新聞紙の特徴を知り、その特徴を活かし造形遊びを体験 〔準備学習〕教科書 P23～P24 新聞紙で遊ぼう！を読んでおくこと。
3	新聞紙を利用した粘土づくり	新聞を原料とした紙粘土の製作 〔準備学習〕新聞紙粘土の作り方を事前に調べておくこと。
4	絵具の種類と着色のしかた	様々な粘土の種類と特徴を知り、紙粘土に着色方法を体験 〔準備学習〕教科書 P132～P133 色で遊ぶを読んでおくこと。
5	「紙コップ」を使った紙工作	素材の特徴を活かした幼児のおもちゃの製作 〔準備学習〕紙コップを使った造形活動の実践例を調べておくこと。
6	「紙皿」を使った紙工作	材料の特徴を活かしたおもちゃや掲示物の製作 〔準備学習〕紙皿を使った造形活動の実践例を調べておくこと。
7	「ペットボトル」を使った工作	ペットボトルを利用したおもちゃの製作 〔準備学習〕ペットボトルを使った造形活動の実践例を調べておくこと。
8	「封筒」を使った紙工作	封筒を使ったおもちゃの製作 〔準備学習〕封筒をどのように活用するか試しておくこと。
9	「色水」を使った造形遊び	色の三原色を使い、その特徴を活かした造形遊びを体験する。 〔準備学習〕教科書 P24～P25 色に遊ぶ・P71 色彩表現の特徴を読んでおくこと。
10	「紙」を使って	グリーティングカードの製作 〔準備学習〕グリーティングカードの種類や特徴をまとめておくこと。
11	「紙」を使って	はがきの製作 〔準備学習〕暑中見舞いや年賀状等のはがきのデザインを考えておくこと。
12	「紙」を使って	カレンダーの製作 〔準備学習〕年中行事や季節ごとの特徴的なモチーフについてまとめておくこと。
13	多様な粘土を使って	様々な粘土の種類と特徴を知り、発達段階に合った造形遊びを体験(グループワーク) 〔準備学習〕テキスト P5～P10とP17を読んでおくこと。
14	対象年齢にあった絵本の選び方	対象年齢にあった絵本の選び方(予習1時間、復習1時間) 〔準備学習〕幼少期自分の好きだった絵本を読み返しておくこと。
15	保育の造形 授業の振り返り	授業を振り返り、学びを深める(復習3時間) 〔準備学習〕テキストを完成させておくこと。

《テキスト》

《参考図書》

文部科学省「幼児教育要領」フレーベル館
厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館
内閣府(文部科学省・厚生労働省)
「幼児連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館
学び合い高め合う「造形遊び」東洋館出版社
小学校教科用図書「ずがこうさく1・2上下」開隆堂出版社

《授業時間外学習》

各時間ごとに掲載した「準備学習」の教科書を事前に読んでおく、材料を準備しておく。(本授業では15時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

授業内で適宜フィードバックを行い、最終提出したテキストにコメントを付してフィードバックする。

《専門科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

幼稚園等において15日間の教育実習を行う。原則として全日責任実習を経験することで、幼稚園等における一日の学級運営の実際を理解するとともに、幼児の成長を支え、適当な環境を与えることのできる専門職として必要な理論と実践について学習する。また、実習園が行っている家庭・社会との連携や子育て支援等を知る。社会人としてのマナーを身につけ、本学の「育てたい保育者像」の具現化を目指す。

《授業の到達目標》

様々な場面で幼児理解に基づいて適切に幼児にかかわることができる。実習園の教育課程等を踏まえ、子どもの実態に即した指導計画を立案し、実践することができる。実習園で保育者及び幼児から得た学びを言葉化・文章化できる。幼稚園の社会的役割について説明できる。各自のテーマや当該実習のねらいに即した振り返りができる。

《成績評価の方法》

成績評価の方法
実習日誌40% 実習先評価40% 提出物20%で教育実習を総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

○幼稚園教育要領および同解説 ○小櫃智子他編著「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社 2015 ○実習の手引き（国際学院埼玉短期大学幼児保育学科）

《参考図書》

○「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」および同解説
○大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020
○植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006
○無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研 2017

《授業時間外学習》

[実習前] ○実習生として求められる最低限の社会的良識を備える。○部分実習・責任実習に向けて教材研究、指導案の作成等を行う。○実習園にてオリエンテーションを実施し、その記録をまとめておく。[実習中] ○当日の実習日誌を記録し、次の日の課題を把握する。○その他、教育実習指導の講義内容を再確認し、事前・事後学習を十分に行うこと。

《課題に対するフィードバック等》

提出物は内容を確認し、講評などでフィードバックするほか、返却時にコメントをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全日責任実習に向けての準備（5日間）	保育に参加し 保育の流れを理解する 幼児に親しみ、行動の意図を理解し、教師の援助の仕方を学ぶ 保育の一部を担当する。[事前・事後学習]実習日誌の作成
2	全日責任実習向けの準備（5日間）	保育に参加し 幼児の発達、個人差について理解し対応を学ぶ 保育の一部担当に向け幼児の実情に応じた指導案を立案し実践する。[事前・事後学習]実習日誌の作成
3	全日責任実習の実施（5日間）	全日指導案立案と実践から教師の役割や職務の理解を深める 家庭・地域との連携や子育て支援を学び幼稚園の社会的役割を考える。[事前・事後学習]実習日誌の作成
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門科目》

科目名	保育実習				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「保育実習」での学びを基礎とした保育所での実践を通し、以下のことについて学ぶ。

- 保育士としての資質・能力・技術を修得
- 実習経験の集大成としての責任実習の実施
- 家庭と地域の実態と子ども家庭福祉ニーズの理解
- 子育て支援のために必要とされる理解力・判断力の育成

《テキスト》

必要に応じて資料配布をする。

《参考図書》

汐見総幸監修「保育所保育指針ハンドブック2017告示版」学研

《授業の到達目標》

保育にかかわる基本的な知識を自己の将来設計や課題と関連づけて説明することができる。

保育士としての責務を説明することができる。

コミュニケーション能力・創造的表現力・倫理的思考力・問題解決能力・保育技術など、保育士として必要な技能を身につけて表現することができる。

《授業時間外学習》

絵本・紙芝居・素話・ピアノなど、保育実習にかかわる技能に関する反復練習を自己学習の中で行う。
また、教材研究と指導案の作成を行う。

《成績評価の方法》

実習先の評価25%、実習日誌50%、提出物25%で総合的に評価し、60点以上を合格させる。

《課題に対するフィードバック等》

専門科目の単位修得状況、「保育実習指導」の評価により、実習への参加の是非を決定する。実習園からの評価は実習後の授業内においてフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デイリープログラム	保育所の状況と実習園についての理解 保育の現場における一日の流れについての学習
2	保育技術の習得	乳幼児の遊びにかかわる保育技術（絵本の読み聞かせ、指遊びなど） 生活における保育技術（言葉かけ、環境設定、時間配分など）
3	発達過程	乳幼児の発達過程についての学習 事例研究（ディスカッション）
4	乳幼児理解	乳幼児の発達過程をふまえた個人差についての理解 個人差についての対応方法の理解と検討（ディスカッション）
5	特別な配慮を要する子ども	特別な配慮を要する子どもについての学習 対応方法に関する理解と検討（ディスカッション）
6	多様な保育サービス	延長保育等多様な保育サービスについての理解 事例研究（体験学習）
7	指導計画立案（部分実習）	部分実習における指導計画立案 指導計画の確認（プレゼンテーション）
8	指導計画立案（責任実習）	責任実習における指導計画立案 指導計画の確認（プレゼンテーション）
9	家庭との連携	保護者とのコミュニケーション方法の理解 事例研究（ディスカッション）
10	地域社会との連携	地域社会との連携の理解 事例研究（ディスカッション）
11	乳幼児の最善の利益	乳幼児の最善の利益への配慮 事例研究（ディスカッション）
12	倫理観	保育士としての職業倫理の理解 事例研究（ディスカッション）
13	責任実習	立案した指導計画の見直し 指導計画に基づいた保育活動実践
14	実習の振り返り	実習経験の記録作成 実習経験から得られる気づきと改善点、総括
15	今後の課題	本授業における学習の振り返りとワークシートの製本作業 卒業後の進路の展望と自己課題の明確化

《専門科目》

科目名	保育実習				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育士の職域は広がっており、児童福祉施設や障害者支援施設等における専門職としての活躍が求められる。本実習では保育実習1での学びを更に深めるため、施設実習を通して、対人援助技術の基礎を身に付けること、利用児者の個別支援計画を理解した上で実際の支援を行うこと、他職種・地域連携という視点から利用児者を様々な角度で支援することを学ぶ。

《授業の到達目標》

施設の役割と機能について具体的に説明することができる。
個別支援計画から利用児者の個人差やニーズを把握し、個々に応じた支援を実践できる。家庭支援や他職種との連携について具体的方法を論じることができる。保育士としての自己課題を明確にし、対人援助職としての専門性を高める計画を立案することができる。

《成績評価の方法》

実習施設による評価50%、実習後の提出物の状況・実習への参加状況・実習日誌の記述内容（上記到達科目を観点とする）50%とする。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

守巧他 改訂版「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、2023
「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会、2018
河合 高鋭・石山 直樹 編 保育をめざす人のための施設実習ガイド みらい 2022

《授業時間外学習》

「保育実習指導」履修が必須となります。
実習までに、これまでの学修を振り返るようにしてください。
実習終了後は振り返りシートや自己評価票作成を行い、各自が実習を振り返り、自己の課題を明確にしてください。

《課題に対するフィードバック等》

実習先による中間評価や最終評価や、訪問担当教員による実習中におけるフィードバックを実施します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	施設実習	児童福祉施設等における実習の実施
2	施設の役割と機能：一日の流れとプログラム理解	施設での生活、一日の流れ（生活の流れやプログラム・活動の流れ）について実践を通して理解する
3	施設の役割・機能の理解	実習での具体的な取り組みを通して、実習施設の役割は何か、どのような機能を有しているのかについて理解する
4	利用児・者一人一人に応じた関わり	実習施設の利用児・者との関わりと支援を通して、それぞれの施設の役割・機能、個々の対象に対する支援方法や技術を高める
5	計画に基づく活動や援助・支援	実習施設の理念・目的、個々の支援計画に基づく活動や援助・支援がどのように実践されているのかを理解し、自らもその活動・支援を実行し改善を図る
6	利用児・者の心身の状態に応じた対応	国際生活機能分類（ICF）の考え方に基づいた利用児・者の理解を不断に試み、障害に対する合理的配慮および発達の側面からの支援についての専門性を高める
7	利用児・者の活動と生活の環境	実習施設の利用児・者の活動・生活環境はどのような目的で構成・構築されているか、実践を通して理解し、自らも環境構成に努める
8	健康管理・安全対策の理解	実習施設において、利用児・者及び職員の健康管理や安全対策はどのように実行されているか、職員との関わりや聞き取り等によって理解・実践し、専門性を高める
9	支援計画の理解と活用	個人情報の取り扱いについて十分配慮されたうえで、利用児・者の状態と（個別）支援計画について理解し、どのように支援計画が活用されているか考察を深める
10	記録に基づく省察・自己評価	実習日誌へ日々記録していく中で、自らの関わりや考えを言語化し整理することを通して、実習施設及び利用児・者への理解を深め、日々の支援方法の改善に努める
11	保育士・生活支援員の業務内容の理解	実習施設における保育士及び生活支援員等はどういった役割・業務内容を担っているか、実践を通して理解し、対人援助職としての保育士について考察を深める
12	職員間の役割分担と連携についての理解	様々な専門職がどのような役割を担い、利用児・者のためにどのような連携が行われているかを可能な限り観察・共に実践し、連携についての理解を深める
13	利用児・者の家庭への支援についての理解	可能な限り、利用児・者の家庭の実態に触れ、児童家庭福祉、社会的擁護、障害児・者支援に対する理解を基に、家庭支援の知識・技術・判断力を養うよう努める
14	地域社会との連携についての理解	実習施設の地域活動や地域サービスに参加して、施設の地域における役割や機能、地域のニーズについて理解を深める
15	施設実習の振り返りと自己課題の明確化	実習施設での観察・実践、実習日誌への記録による振り返りを通して、保育士としての役割と職業倫理、自らの今後の新たな課題について明確にする

《専門科目》

科目名	子ども家庭福祉				
担当者氏名	佐野 裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

少子化の進行や虐待、貧困など子どもを取り巻く問題は深刻化している。この講義では、子どもと家庭のウェルビーイングをめざす保育とその根底にある子どもの人権について学ぶ。また、グループワークやディスカッション、パワーポイントを使用した発表により子どもと家庭の福祉に関する実践的知識や実践的技能を習得する。

《テキスト》

新保幸雄・小林 理編集：『新基本保育シリーズ3 子ども家庭福祉』，中央法規，2023年。

《参考図書》

・厚生労働省：『保育所保育指針解説』フレーベル館，2018年
 ・小野崎佳代・石田美幸『保護者支援・子育て支援』ミネルヴァ書房，2020年

《授業の到達目標》

子どもの人権と子ども家庭福祉の理念について説明できる。
 子ども家庭福祉の法制度と実施体系について説明できる。
 子ども家庭福祉の現代的課題を理解し、支援・援助を行う際に必要な実践的知識、実践的技能を習得することができる。

《授業時間外学習》

予習では教科書の該当するページを熟読し、疑問点をまとめておく。復習では授業のまとめや課題作成、また、疑問点を調べておき、次の授業時に担当教員に質問をする。
 子どもや家庭の福祉に関するニュースに関心を持ち、情報をファイルしておく。

《成績評価の方法》

レポート（30％）定期試験（70％）
 総合して60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートなどの課題はコメントを記載し、翌週の授業内で返却する。また、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの人権と児童の最善の利益	子ども家庭福祉を学ぶ意義、人権とは何か、子どもの人権 予習：テキスト3講を熟読(2時間) 復習：子どもの人権についてまとめる(2時間)
2	子ども家庭福祉の歴史の変遷	日本と海外の子ども家庭福祉の歴史と子どもの人権 予習：テキスト2講を熟読(2時間) 復習：日本と海外の歴史を比較する(2時間)
3	子ども家庭福祉の制度と実施体制	子ども家庭福祉の法制度、実施体制 予習：テキスト4講を熟読(2時間) 復習：妊娠～子育て支援まとめ(2時間)
4	少子化と子育て不安	少子化、子育て不安とは何か、子育て支援の在り方 予習：少子化について調べる(2時間) 復習：少子化と子育て支援のまとめ(2時間)
5	子ども虐待・DVとその予防	子ども虐待・DVとは何か、子ども虐待とDVの実情、グループ討議 予習：テキスト9講を熟読(2時間) 復習：子ども虐待の政策のまとめ(2時間)
6	貧困と家庭への対応	子どもの貧困とは何か、子どもの貧困に関する政策、制度 予習：テキスト10講を熟読(2時間) 復習：子どもの貧困に関する政策のまとめ(2時間)
7	少年非行等への対応	少年非行の定義と法律、社会的養護の現状と課題、グループ討議 予習：テキスト13講を熟読(2時間) 復習：社会的養護の課題のまとめ(2時間)
8	子どもの人権と現代的課題・討議	現代的課題(子育て不安・虐待・貧困・少年非行・子育て支援)、討議 予習：発表の準備確認(2時間) 復習：発表テーマに関する資料収集(2時間)
9	子どもの人権と現代的課題・発表(1)	現代的課題と保育者の役割について、学習成果を各グループで発表 予習：発表原稿の準備確認(2時間) 復習：発表資料・パワーポイント作成(2時間)
10	子どもの人権と現代的課題・発表(2)	現代的課題と保育者の役割について、学習成果を各グループで発表 予習：発表原稿の準備確認(2時間) 復習：振り返りレポートの作成(2時間)
11	障がいのある子どもへの対応	障がいのある子どもと家庭を支えるしくみ、障がい児支援の背景 予習：テキスト12講を熟読(2時間) 復習：保育士の役割まとめ(2時間)
12	少子高齢化と地域子育て支援	少子高齢化の実態、子ども子育て支援制度と地域子育て支援 予習：テキスト6講を熟読(2時間) 復習：地域子育て支援まとめ(2時間)
13	母子保健と子どもの健全育成	母子保健と子どもの健全育成の意義、保育サービスの動向 予習：テキスト7講を熟読(2時間) 復習：母子保健のまとめ(2時間)
14	多様な保育ニーズへの対応	多様な保育ニーズに対応する仕組み、支援者としての役割 予習：テキスト8講を熟読(2時間) 復習：多様な保育ニーズ、支援者のまとめ(2時間)
15	地域の連携と子育て支援ネットワーク	支援ネットワークの必要性、保育士の役割・討議、発表 予習：テキスト15講を熟読(2時間) 復習：支援ネットワークのまとめ(2時間)

《専門科目》

科目名	社会的養護				
担当者氏名	田中 久子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

何らかの事情で家庭環境を奪われた子ども、あるいは家庭環境にとどまることが望ましくない子どもが存在する。こうした子どもを国が責任を持って保護し援助する体制が社会的養護である。この授業では、時代とともに変化する子どもを取り巻く社会的課題や制度、専門職とは何か、援助技術についての知識を修得する。そして、子どもの権利、保育士の倫理や責務をグループ討議を行うことで深めていく。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的養護の意義と歴史の変遷を述べることができる。
- (2) 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について説明することができる。
- (3) 社会的養護の制度や実施体系等について説明できる。
- (4) 社会的養護の対象や形態、関連する専門職等について述べるができる。
- (5) 社会的養護の現状と課題について説明できる。

《成績評価の方法》

リアクションペーパー及びワークシート評価(30%)、定期試験(70%)
総合して60点以上を合格とする。

《テキスト》

新基本保育シリーズ6
相澤仁他編集「社会的養護」第2版 中央法規

《参考図書》

- (1) 小口尚子・福岡鮎美著「子どもによる子どものための子どもの権利条約」(小学館)
- (2) 福祉教育カレッジ「イラストでみる社会福祉用語事典(第2版)」テコム2017

《授業時間外学習》

- (1) 事前にテキストである本(教科書)の予習をし、専門用語や制度について学習しておくこと。
- (2) 社会福祉に関わるニュースや身近な事象を常に意識し、毎回のテーマについての疑問点、課題を整理しておく。毎回の授業について、予習、復習(概ね4時間)の自己学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業後に提出するリアクションペーパーに評価、質問への回答を記入する形でフィードバックする。加えて、疑問点、質問は授業内及び授業後にも受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護の理念と概念	社会的養護の基礎概念、理念や原理の理解 予習：教科書p2-12(2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
2	社会的養護の歴史の変遷	欧米及び日本の社会的養護の歴史、子ども観の変遷を理解する 予習：教科書p14-24(2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
3	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの人権擁護のとらえ方、擁護、虐待の予防や対応の在り方への理解 予習：教科書p26-36復習(2時間)：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
4	社会的養護の基本原則	家庭養護優先原則の根拠となる法律や条約、施策や動向を理解する 予習：教科書p38-48(2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務	対人支援を行う支援者に求められる高い倫理観を理解する 予習：教科書p50-60(2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
6	社会的養護の制度と法体系	「措置制度」とその背景原理、児童福祉法の概要、関連法規の理解 予習：教科書p62-72(2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
7	社会的養護のしくみと実施体系	児相から施設、里親家庭に至るまでの過程を学び施設の概要課題を理解する 予習：教科書p74-84復習(2時間)：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	ソーシャルワークの基本的視点や考え方を確認し、その展開を理解する 予習：教科書p86-96(2時間)復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
9	社会的養護の対象と支援のあり方	予防的支援、在宅措置、代替養育を学び、対象者のニーズを理解する 予習：教科書p98-108(2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
10	家庭養護と施設養護	家庭養護(里親やファミリーホーム)と施設養護の現状と課題を理解する 予習：教科書p110-120(2時間)復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
11	社会的養護にかかわる専門職	専門性や資格の種類、保育士とかかわる専門職、その他の職種を理解する 予習：教科書p122-132(2時間)復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
12	社会的養護に関する社会的状況	社会的養護体制の現状とその在り方、また存在意義について理解する 予習：教科書p134-144(2時間)復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
13	施設等の運営管理の現状と課題	施設運営の内容と費用の仕組み、あり方について理解する 予習：教科書p146-156(2時間)復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	施設入所児童等の虐待防止の経緯及び発生原因と課題の理解 予習：教科書p158-168(2時間)復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)
15	社会的養護と地域福祉の現状と課題	児童福祉施設の地域への貢献の必要性や今後の課題についての理解 予習：教科書p170-180(2時間)復習：教科書該当箇所 ワークシート(2時間)

《専門科目》

科目名	子ども理解				
担当者氏名	高橋 淳一郎				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

子どもの生活や遊びの実態をディスカッション等を通じて理解を深め、それに即して子どもの発達や学びとその過程で生じるつまずきおよびその要因を把握するための原理や方法について演習を通じて学ぶ。なお、この授業ではあらかじめテーマを与え、それについて予習した内容をグループで共有する協同学習を行う。そのため、予習を必須とするとともに予習忘れや欠席は他の学生に迷惑となるため厳禁である。

《授業の到達目標》

子どもの発達および行動のアセスメントを実施できる。
 子どものつまずきの内容とその背景を説明できる。
 子どもの理解を深めるための基礎的な態度について説明できる。
 発達の連続性を理解し、就学への支援のあり方を考えることができる。
 予防的介入のあり方について考えることができる。

《成績評価の方法》

定期試験の得点を40%、授業内のワークの内容を40%、リアクションペーパーの記載内容20%で評価する。
 総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

次良丸睦子 他(編著) 2021 現代の子どもをめぐる発達心理学と臨床 福村出版

《参考図書》

佐藤公治 2019 発達と育ちの心理学 萌文書林
 請川滋大 2020 子ども理解 個と集団の育ちを支える理論と方法 萌文書林

《授業時間外学習》

予習として与えられたテーマについて教科書やその他資料を読むなどして調べる(30分)。授業後は予習ノートと授業内容を確認し、ノートを整理する(30分)。本授業は時間外学習として合計15時間の予習・復習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

リアクションペーパーの記載内容については次週の授業で振り返りをおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子ども理解の意義	子ども理解の重要性と心理学的知識の活用について理解する。＜授業外＞テキストの序章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
2	子どもの発達を概観する	主として乳児期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。(グループでの協同学習)＜授業外＞テキストの第1章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
3	子どもの発達を概観する	主として幼児期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。(グループでの協同学習)＜授業外＞テキストの第2章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
4	子どもの発達を概観する	児童期と青年期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。(グループでの協同学習)＜授業外＞テキストの第3～5章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
5	特別な支援を必要とする子どもの理解	主要な発達障害の症状と対応方法について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞テキストの第6章第1～2節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
6	特別な支援を必要とする子どもの理解	主要な発達障害の症状と対応方法について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞テキストの第6章第3～5節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
7	子どもの精神疾患	乳幼児期～児童期によく見られる精神疾患について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞テキストの第7章第1節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
8	子どもの精神疾患	乳幼児期～児童期によく見られる精神疾患について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞テキストの第7章第2節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
9	アセスメント	子どもを理解しアセスメントする方法と目的について学ぶ。(グループでの協同学習)＜授業外＞テキストの第12章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
10	アセスメント	検査によるアセスメントの方法について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
11	アセスメント	観察の方法と、それぞれの長所・短所を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
12	記録と省察	アセスメントにおける記録の意義と情報の共有方法について理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
13	就学への支援	発達の連続性を理解し、就学に向けた支援のあり方を考える。(グループでの協同学習)＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
14	予防的心理教育	一次的援助の理論について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞テキストの第13章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
15	予防的心理教育	一次的援助の方法について考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。

《専門科目》

科目名	保育の計画と評価				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

この授業では、保育における計画と評価の意義および指導計画の作成方法等について学ぶ。また、保育課程の全体構造を把握し、保育の望ましいあり方について考察する。

本授業では、グループディスカッションや指導計画の作成・検討を行う。

《授業の到達目標》

保育における計画と評価の意義について理解し、説明することができる。

全体的な計画と指導計画の作成方法を理解し、実際に作成することができる。

保育課程の全体構造を把握し、自身の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

授業中に提示する課題30%

指導案および中間レポート50%

最終レポート20%

総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

前田和代編(2023)『新・保育の計画と評価 - 理論と実践をつなぐ保育カリキュラム論 -』教育情報出版

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレ・ベル館

厚生労働省『保育所保育指針解説』フレ・ベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレ・ベル館

《授業時間外学習》

事前学習として、テキストの該当箇所を読んでおくこと。本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

授業中に提示する課題と指導案および中間レポートについては、授業内で返却し解説を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育における計画	なぜ保育に計画が必要なのか 事前学習：テキスト第1章第1節を読んでおく
2	カリキュラムの基礎理論	カリキュラムとは何か 事前学習：テキスト第1章第2～4節を読んでおく
3	保育カリキュラムの構造	全体計画と指導計画 事前学習：テキスト第2章第1節を読んでおく
4	保育所の指導計画	保育所の指導計画について 事前学習：テキスト第2章第2節を読んでおく
5	幼稚園の指導計画	幼稚園の指導計画について 事前学習：テキスト第2章第3節を読んでおく
6	認定こども園の指導計画	認定こども園の指導計画について 事前学習：テキスト第2章第4節を読んでおく
7	指導計画の構想	どのように指導計画を構想するか 事前学習：テキスト第2章第5節,第3章を読んでおく
8	指導計画の書き方	指導計画の書き方の基本 事前学習：テキスト第4章第1～3節を読んでおく
9	指導計画の作成・検討	長期的な指導案の作成・検討 事前学習：長期的な指導計画の事例を調べておく
10	指導計画の作成・検討	短期的な指導案の作成・検討 事前学習：短期的な指導計画の事例を調べておく
11	様々な指導計画	縦割り保育、個別支援計画など 事前学習：テキスト第4章第4,5節を読んでおく
12	保育の記録と評価	保育の記録の方法 事前学習：テキスト第5章第1節を読んでおく
13	保育の記録と評価	保育の評価と改善 事前学習：テキスト第5章第2節を読んでおく
14	小学校との連携	幼保小連携について 事前学習：テキスト第5章第3節を読んでおく
15	全体のまとめと振り返り	授業全体のまとめと振り返り 事前学習：これまでの授業内容を振り返っておく

《専門科目》

科目名	音楽表現領域指導法				
担当者氏名	越智 光輝				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

子どもの発達を意識した音楽活動について、フィールドワーク、グループワーク、個人およびグループによる発表を通じて学ぶ。学んだ音楽活動にもとづいて、模擬保育を実践する。

《テキスト》

渡邊雄介（監修）芳野道子・越智光輝（編著） 他
保育内容「音楽表現」 声から音楽へ 響きあう心と身体
福村出版株式会社

《参考図書》

必要に応じてプリントを配布する。

《授業の到達目標》

子どもの自由な音楽表現を受容できる保育者となるために、子どもの発達に応じた表現の領域におけるねらい等について説明できる。

楽器や身近な素材を用いて自由な音楽表現が実践できる。
音楽表現活動における子どもの発達に応じた導入方法を実践できる。

《授業時間外学習》

提示された課題への取り組み
発表に向けた自己学習
模擬授業に必要な備品の準備
(本授業では15時間の時間外学修が必要です。)

《成績評価の方法》

個人発表(10%)、グループ発表(50%)、課題提出(40%)で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

提出された課題、個人やグループによる発表に対して、授業内でフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	音を聴くことによる受容と表出	表現の領域における「ねらい」「内容」「内容の取扱い」に関するグループワーク 〔時間外学習〕日常生活で耳にする音についての調査(復習1時間)
2	いろいろな「音」の収集	身近で耳にする様々な音の収集と発表用資料の作成 〔時間外学習〕収集したデータの選別、発表にむけての準備(予習・復習1時間)
3	収集した「音」についての発表	収集した「音」について、作成した資料を用いた発表 〔時間外学習〕発表にむけての準備(予習・復習1時間)
4	諸外国の音楽教育	エミール・ジャック=ダルクローズ、コダーイ・ゾルターンの音楽教育について 〔時間外学習〕リトミックについて調べておく(予習・復習1時間)
5	保育者としての歌唱	呼吸器官、発声器官、共鳴器官について学び、発声練習を実践 〔時間外学習〕呼吸器官を意識した呼吸法の実践(予習・復習1時間)
6	楽器との出会い	子どもがふれる楽器と楽器の特長に関するグループワーク 〔時間外学習〕学んだ分類方法を用いた楽器の分類(予習・復習1時間)
7	楽譜からの情報による印象の変化	「音楽の3要素」(メロディー、リズム、ハーモニー)が与える様々な印象 〔時間外学習〕提出した課題への取り組み(予習・復習1時間)
8	楽器を用いた自由な表現	楽器を用いた独奏曲の楽譜を個人で作成 〔時間外学習〕楽譜作成、発表にむけての準備(予習・復習1時間)
9	作曲した独奏曲の発表(前半)	出席番号前半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 〔時間外学習〕発表の振り返り、発表にむけての準備(予習・復習1時間)
10	作曲した独奏曲の発表(後半)	出席番号後半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 〔時間外学習〕発表の振り返り(予習・復習1時間)
11	素材をいかした音作り	オリジナルの合奏曲(紙を用いて音を出す)の楽譜をグループで作成 〔時間外学習〕楽譜作成、発表にむけての準備(予習・復習1時間)
12	作成した合奏曲の発表	作曲したオリジナルの合奏曲をグループで発表 〔時間外学習〕発表の振り返り(予習・復習1時間)
13	音楽活動の計画	模擬保育(音楽活動)の計画と指導案作成 〔時間外学習〕指導案作成と模擬保育で使用する教材等の準備(予習・復習1時間)
14	音楽活動の実践	模擬保育の実践(1~3班の発表)と講評〔時間外学習〕模擬保育で使用する教材等の準備、実践した模擬保育の振り返り(予習・復習1時間)
15	音楽活動の実践に関するまとめ	模擬保育の実践(4~6班の発表)と講評 〔時間外学習〕実践した模擬保育の振り返り(復習1時間)

《専門科目》

科目名	身体表現領域指導法				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

本科目は全15回の授業で「こころ」と「からだ」を用いた表現について、主にグループワークを通じて学ぶ。それは、自由な発想やイメージによる自己表現を共有する授業であり、あらゆる自己表現を互いに認め合う態度を養う。子どもの表現を引き出すためには、保育者自身が豊かな感性を磨いていく必要がある。そのために、自由に身体を動かす楽しさを学び、他者の表現を尊重しながらグループで協力して身体表現を創作する。

《授業の到達目標》

保育現場で実践できる身体表現技能を身につけるため、次の目標達成を目指す。自らの体験を通して身体表現活動の楽しさを味わい、身体表現技能を修得できる。保育活動の視点から、身体表現活動への展開方法について学び、実践できる。幼児の感性・創造性を尊重し、共感できる態度を身につけ、幼児の表現を評価できる。

《成績評価の方法》

授業内で実施する各種実技試験70%、毎回の学習記録30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

井上勝子他『新訂 豊かな感性を育む身体表現遊び』ぎょうせい
魚住美智子、大方美香『幼児の身体表現 保育・教育シリーズ』久美
渡邊雄介監修、芳野道子、越智光輝編著「保育内容『音楽表現』声から音楽へ 響きあう心と身体」

《授業時間外学習》

本授業で取り組む、身体表現について、TEAMSに提示する実技課題動画を参考にしながら予習・復習しておくこと。また、各学習内容に関する事柄について、図書またはインターネットなどを用いて予習・復習しておくこと。（本授業では15時間の時間外学修を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業後に提出する授業記録用紙に対してコメントを記載し、次回の授業内で返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期における身体表現活動の意義	子どもの感性と身体表現、保育者の指導・援助に関する理解〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
2	「からだ」のコミュニケーション	身体に着目した他者との関わり、立腰（実技試験）〔時間外学習〕本次で取り組んだ実技試験の内容についてスムーズにできるように反復すること（予習・復習1時間）
3	新聞紙を用いた表現活動（練習）	走る、模倣、破く、ゲームなど新聞紙を用いた活動の指導・留意点〔時間外学習〕参考図書 pp77～85の内容について予習・復習すること（合計1時間）
4	新聞紙を用いた表現活動（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
5	パラバルーン（練習）	基本的なパラバルーンの扱い方、基本的な技の練習〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
6	パラバルーン（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
7	スポーツの表現（練習）	スポーツを題材とした即興的な身体表現の創作〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
8	スポーツの表現（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
9	からだで窓をつくらう（練習）	個の表現から群の表現へと発展する身体の使い方〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
10	からだで窓をつくらう（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
11	リズムダンスの創作（基礎）	動きに関する基礎的な創作方法〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
12	「夏」の表現（練習）	夏を題材とした即興的な身体表現の創作〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
13	「夏」の表現（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
14	リズムダンスの創作（練習）	オリジナルの動きを取り入れたリズムダンスの創作〔時間外学習〕実技試験に備えて、正確な動作、再現性を高める練習をすること〔予習・復習1時間〕
15	リズムダンスの創作（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験、本授業の総括〔時間外学習〕実技試験の内容を予習し、自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）

《専門科目》

科目名	人間関係領域指導法				
担当者氏名	岡澤 陽子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

この授業では、乳幼児が社会の中で主体として育っていく上で、土台となる人間関係について学ぶ。子ども自身の心や体に直接響く体験を具体的な事例を通して、少しずつ着実に刻まれていけるように修得する。そのためには乳幼児期に子どもたちがどれほど真剣に、自己、他者、人との触れ合いに向き合えるように、保育者としての感覚を磨く。

《授業の到達目標》

(1) 領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を説明できる。(2) 幼児の心情、認識、思考及び動きなどを踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。(3) 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を説明できる。

《成績評価の方法》

授業内で記録するノート、学習レポートなどの提出物(40%)、最終筆記試験(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児教育の基本と領域「人間関係」	学生が子どもと関わり「育てる人」へと転換するための幼児教育の基本を考える。(時間外学習)2つの要領と1つの指針の中の領域「人間関係」を読んでおく。
2	好きな人との信頼関係を基盤に育つ	子どもの世界を感じよう(時間外学習)新生児・乳幼児の発達について復習する。p30~p46
3	保育者としての感覚を磨こう	子どもはあなたを見つめている。失敗は学びの宝庫(時間外学習)教科書を予習する。p46~p59
4	乳幼児期の人間関係	乳幼児期の人間関係と生涯を通じた「人間関係」の原理とその発達(時間外学習)教科書第2章§1、§2について自分の考えをまとめる。
5	保育者やいろいろな友達のいる環境	仲間入りを巡る人とのかかわり(時間外学習)教科書第3章§1について読んでおく。
6	人との信頼関係	安心して園生活を送れるようにするための保育者のかかわり(時間外学習)教科書第3章§2について読んでおく。
7	けんかやいざこざから生まれるもの	事例「それでも絵本が欲しかった」について学ぶ。(時間外学習)教科書第3章§3について読んでおく。
8	片付けと人間関係	片付けを巡る子どもと保育者の関係を様々な事例で学ぶ。(時間外学習)教科書第3章、§4について読んでおく。
9	遊びと人とのつながり	物を介した人とのつながり。(時間外学習)教科書第3章§5について読んでおく。
10	道徳性・規範意識の芽生え	幼児期における道徳性・規範意識の芽生え。(時間外学習)教員の作成した資料について自分の考えをまとめる。
11	気になる子どもと他児とのつながり	一人一人の乳幼児の本当の気持ちがわかる先生に。(時間外学習)教科書第3章、§7について読んでおく。
12	保護者支援と保育者の役割	テキストの事例を通して意見交換をする。(時間外学習)教科書第3章、§8について読んでおく。
13	協同的な活動における体験・学びの芽生え	テキストの事例を通して考える。(時間外学習)教員の作成した資料について自分の考えをまとめる。
14	指導案の作成と評価	ルールのある遊びについての教材研究・指導案の作成を行う。(グループ討議)(時間外学習)ルールのある遊びについて指導案を作成する。
15	園内の人間関係と保育者の自分磨き	ルールのある遊びについての指導案の実践と評価を行う。(グループ討議)(時間外学習)作成した指導案の評価とシミュレーションを考える。

《テキスト》

保育内容 人間関係 あなたならどうしますか? 最新版 編著 酒井幸子 萌文書林

《参考図書》

幼稚園教育要領(文部科学省)平成29年告示
 保育所保育指針(厚生労働省)平成29年告示
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府、文部科学省、厚生労働省)平成29年告示

《授業時間外学習》

・教科書の精読、及び授業内で配布された資料等について、予習復習を行う。教員からのフィードバックを基に、最終筆記試験に備える。
 本授業では15時間の時間外学習を必要とする

《課題に対するフィードバック等》

授業内で実施する学習内容の理解を確認する。ノートや学習レポート等の提出物については、翌週の授業までに講評し、コメントを付けてフィードバックを行う。

《専門科目》

科目名	特別支援保育				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

特別支援保育での学びをもとに、子どもの年齢ごとに運動・認知・社会性・基本的な生活習慣などの発達の道筋を確認しながら、発達の遅れや偏りのある子どもの理解と対応を学ぶ。ケーススタディとして、0才から6歳までの子どもと保護者の様子を取り上げ、家庭や関係機関との連携をふくめた支援のあり方について自身の考えをまとめる。ディスカッションを通して、主体的、協働的な学びを深める。

《授業の到達目標》

子どもの発達の道筋に添って発達の遅れや偏りを理解し説明できる。

事例から支援計画・保育計画を立案することができる。

保育計画から保育展開を想定することができる。

保護者への支援方法を論じることができる。

他機関との連携について説明することができる。

《成績評価の方法》

授業の到達目標に基づき、課題等提出物20%、授業内の取り組み・発言等20%、定期試験60%で評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

尾野明美ら著「アクティブラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育」萌文書林,2023

《参考図書》

「幼稚園教育要領 平成29年告示」フレーベル館
 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示」フレーベル館
 「保育所保育指針 平成29年告示」フレーベル館
 「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部学習指導要領 平成29年4月告示」海文堂出版

《授業時間外学習》

教科書を用いて、授業計画に沿って予習復習に取り組んでください。（授業時間外学習は15時間です）。インターネットや書籍などを用いて、自身の住んでいる地域にどのような社会資源があるかなどについて調べ、特別支援保育に関する自身の考察を深めていきましょう。

《課題に対するフィードバック等》

提出課題や授業での発言等へ、その都度コメントを付すことでフィードバックしていきます。提出された課題を全体に紹介して意見交換することで学びを深めることもあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	0歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	0歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p2-9 復習：授業配布プリント
2	0歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	0歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育・配慮について学ぶ。 予習：教科書 p10～31 復習：授業配布プリント
3	1歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	1歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p32-40 復習：授業配布プリント
4	1歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	1歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育・配慮について学ぶ。 予習：教科書 p41～77 復習：授業配布プリント
5	2歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	2歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p78-85 復習：授業配布プリント
6	2歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	2歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育・配慮について学ぶ。 予習：教科書 p86～119 復習：授業配布プリント
7	3歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	3歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p120-126 復習：授業配布プリント
8	3歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	3歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書 p127～147 復習：授業配布プリント
9	4歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	4歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p148-154 復習：授業配布プリント
10	4歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	4歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書 p155～177 復習：授業配布プリント
11	5歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	5歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p178-183 復習：授業配布プリント
12	5歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	5歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書 p184～210 復習：授業配布プリント
13	6歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	6歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p211～214 復習：授業配布プリント
14	6歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	6歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書 p215～234 復習：授業配布プリント
15	特別支援保育の課題と展望	特別支援教育に関する知識の理解度を確認する。 予習：これまでの授業の復習 復習：試験結果を振り返る

《専門科目》

科目名	保育のピアノ応用				
担当者氏名	根岸 恭子、山田 真澄、平峯 章生、渡邊 公実子、脇岡 龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

本授業では1年次に習得した演奏技術を、2年次に行われる実習を視野に入れ、発展させていく。実習園から提示される課題曲等の対応も行い、保育の場での実践的な能力をつける。人前での童謡の弾き歌いやピアノ曲演奏の発表を積極的に取り入れる。

《授業の到達目標》

- ・童謡の弾き歌いは伴奏の難易度により取得点数が異なるが、その合計が合格基準の点数を満たすことができる。
- ・参考図書 から のピアノ曲が1曲演奏できる。
- ・簡単な初見視奏ができる。
- ・指定された音階と主要三和音を弾くことができる。

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表50%、童謡弾き歌い、もしくは童謡の初見伴奏45%、音階と主要三和音5%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学習の進め方について	授業内容と方法の説明、受講グループ及びピアノ曲・童謡課題等の決定 [時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
2	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:1週目に決定したピアノ曲・音階と主要三和音、3週目に発表する童謡 3・4班:1週目に決定した童謡等の発表 [時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
3	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:2週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:1週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び4週目に発表する童謡[時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
4	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:2週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び5週目に発表する童謡 3・4班:3週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
5	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:4週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:3週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び6週目に発表する童謡[時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
6	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び7週目に発表する童謡 3・4班:5週目に取り組んだ童謡等の発表[時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
7	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:6週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:5週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び8週目に発表する童謡[時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
8	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び9週目に発表する童謡 3・4班:7週目に取り組んだ童謡等の発表[時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
9	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:8週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:7週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び10週目に発表する童謡[時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
10	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び11週目に発表する童謡 3・4班:9週目に取り組んだ童謡等の発表[時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
11	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:10週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:9週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び12週目に発表する童謡[時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
12	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び13週目に発表する童謡 3・4班:11週目に取り組んだ童謡等の発表[時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
13	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:12週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:11週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び15週目に発表する童謡 [時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
14	ピアノ実技成果発表	ピアノ曲の実技演奏(ノーカット、リピートなし)および指定された音階と主要三和音の演奏 [時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
15	童謡伴奏の発表 実技成果発表の振り返り	童謡の弾き歌い発表と14週目に行ったピアノ実技演奏の振り返り 最終評価の確認 [時間外学習]: 発表に向けての練習(1時間)

《テキスト》

越智光輝「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ!」三恵社

《参考図書》

- (1) 進捗状況に応じて次の ~ より各自で用意する。
全訳バイエル 全音楽譜出版社
ブルクミュラー25練習曲 全音楽譜出版社
ソナチネアルバム 巻 全音楽譜出版社
- (2) 幼稚園、保育所等の実習で演奏する曲

《授業時間外学習》

授業(個人レッスン)は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つけた課題を解決する場と捉え、教員から提示された課題を自己学習して次回の授業に備える。
(本授業では15時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

各課題については、毎授業、時間内に実技の個人指導を行い、適宜コメントする。ピアノ実技成果発表の実施後には、口頭で改善点を個別にフィードバックする。

《専門科目》

科目名	食育論				
担当者氏名	大野 智子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

食についての基本を理解し、子どもの食育活動や保護者支援について学ぶ。また、日本における伝統行事や食卓作法を習得し、子どもたちが、興味関心を持って食育活動ができる力を養う。

この授業は、バズ学習（小グループでテーマについて話し合う）とPBL（問題解決型学習）を取り入れて授業を進める。「生産者から食卓まで」という広い視野の実践例も紹介する。

《授業の到達目標》

食育に関する知識を身につけ、保護者支援に繋げることができる。和食の基本や四季折々の食材や調理法を理解し子どもたちにわかりやすく説明することができる。また、地域別伝統料理を知り、食育活動に生かすことができる。各国の食事のマナーや作法を知り、グローバルな観点で食についての知識を習得し、子どもにわかりやすく伝えることができる。

《成績評価の方法》

評価は、
 授業態度（30％）
 ノート、レポート、課題等（30％）
 筆記試験（40％）
 総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

テーブルマナーの絵本 高野紀子作 あすなる書房

《参考図書》

禅が教えてくれる美しい人をつくる「所作」の基本
 枘野俊明（株）幻冬舎
 「和」の行さえほん 高野紀子作 あすなる書房
 産学協働による認定食育士制度の構築及び実践 テキスト
 「食育教養ラーニング」 国際学院埼玉短期大学

《授業時間外学習》

専用ノートを作成し、各回ごとのテーマに基づいた内容を、見やすく、分かりやすくまとめる。
 本授業では、15時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

講義内容がより理解できるよう、日頃から食に対して興味関心を持ち、授業に臨んでください。毎授業回の最後に質問の時間を設け、回答する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	和食のマナー	毎日使っているお箸にも使い方のルールがあります。正しい使い方を習得する。 〔準備学習〕P6～15までを事前に読んでおくこと
2	食育絵本の発表	食にかかわる絵本の読み聞かせを行う。〔準備学習〕食にかかわる絵本を2冊（乳児向けと幼児向け）選び、読み聞かせの練習をしておくこと
3	和室（畳の部屋）での作法	畳の敷かれた部屋のない住まいも多くなってきたが、和室での決まりごとを理解し、子どもたちに適切に伝えることができる。〔準備学習〕P16～19までを事前に読んでおくこと
4	尾頭付きの魚やてんぷらの食べ方	頭や尾のついたままの魚を食べる機会も少なく、天つゆの付け方など和食全般の食べ方を習得し、食育活動に繋げることができる。〔準備学習〕P20～21を事前に読んでおくこと
5	「いただきます」「ごちそうさま」	食事の前後のあいさつのみならず、食前の準備や食後の後片付けなどの必要性を、子どもたちに伝えることができる。〔準備学習〕P22～25、p36を事前に読んでおくこと
6	日本茶とお菓子 紅茶とお菓子	食後の後のお茶やお菓子のいただき方、招かれた先でのいただき方などを理解し、日常で生かすことができる。〔準備学習〕P26～29、P50～51までを事前に読んでおくこと
7	春を味わう	春を感じる食の楽しみ方や、食材を知り、食育活動に繋げることができる。〔準備学習〕P30～31を事前に読んでおくこと
8	夏を味わう	夏を感じる食の楽しみ方や、食材を知り、食育活動に繋げることができる。〔準備学習〕P32～33を事前に読んでおくこと
9	秋を味わう	秋を感じる食の楽しみ方や、食材を知り、食育活動に繋げることができる。〔準備学習〕P34～35を事前に読んでおくこと
10	冬を味わう	冬を感じる食の楽しみ方や、食材を知り、食育活動に繋げることができる。〔準備学習〕P36～37を事前に読んでおくこと
11	洋食のマナー	カトラリーについて理解し、料理に合ったカトラリーを選ぶことができる。カトラリーを正しく使うことができる。〔準備学習〕P40～47を事前に読んでおくこと
12	洋食のタブー	ナイフやフォーク、スプーンでしてはいけないことを知り、正しい使い方ができる。〔準備学習〕P48～49、p52事前に読んでおくこと
13	外食のマナー	家族そろって画装縮をする機会も増える中、気を付けなければならないことを理解し、子どもたちにわかりやすく伝えられる。〔準備学習〕P54～58を事前に読んでおくこと
14	春夏の行事	日本の伝統行事と季節（春・夏）の楽しみ方を、子どもたちにわかりやすく伝えることができる。〔準備学習〕日本の伝統行事（春・夏）について調べておくこと
15	秋冬の行事	日本の伝統行事と季節（秋・冬）の楽しみ方を、子どもたちにわかりやすく伝えることができる。〔準備学習〕日本の伝統行事（秋・冬）について調べておくこと